



ときまわまつ

新年あけまして

おめでと〜ございます。

本年もどうぞよろしく

お願い申し上げます。

常磐松小学校教職員一同

○新年に寄せて

校長 加藤 真寿美

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと思います。

一月「睦月」には、皆が仲良く親しむ月という意味が込められているそうです。また、笑顔で交わされる「おめでと〜」は、言う人も言われる人もうれしき言葉です。一年の始まりを皆が仲良く、笑顔で過ごすことができれば、きつと素晴らしい年になることでしょう。今年一年が笑顔であふれる学校生活になるよう努めます。

さて、久しぶりに子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。今日から、後期後半の始まりです。校庭の桜の木をよく見てみると、小さな芽が膨らんでいるのが見えます。厳しい寒さが続いています。が、桜の木は、寒さに耐えながらも、来るべき春に向かって静かに花開く力をため込んでいます。子供たちも早いもので、あと三か月で、六年生は卒業して進学、他の学年の子供たちは、次の学年の進級を控えています。一年間を通してみれば、これからの三か月は、培った力を発揮して次のステップを踏んでいく時期でもあります。校庭の桜の芽のように、力を蓄えて、子供たち一人一人の芽が少しずつ膨らんでいくように、そして迎える春に、それぞれの希望の花が開くように支援していきます。

本校も子供たちと同じように、次の春（令和五年度）に向けて、新たな気持ちで準備を進めてまいります。昨年十二月に実施しまし

た学校評価アンケートへの御協力、ありがとうございました。学校の自己評価と合わせて、次年度に向けて芽を大きく膨らませていけるよう活用させていただきます。結果につきましては、分析等をしっかり行い二月に御報告させていただきます。

○文字を書くこと

学校生活再開の本日は、どの学年も席書会を行いました。書初めは、平安時代の宮中行事を起源とし、寺子屋から庶民に広がり、学校教育で定着した正月行事です。一年間の目標を定め、文字の上達を願う意味もあります。学校では、美しく書くことも大切ですが、まずは手本を見て、丁寧に書くことを指導します。一つ一つの文字に心を込め、ゆっくと丁寧に書くこと。硬筆や毛筆にかかわらず、書初めの練習の時間は、とても集中して取り組んでいる児童が多くいます。字は人を表すと言いますが、書写作品には子供たちの個性や思いがよく表れます。校内書初め展が始まりましたら、子供たちの心を込めた作品をお楽しみください。

さて、子供たちが文字を書くことについて、気になることがあります。それは、鉛筆の持ち方です。正しい持ち方をしていない子もいます

が、「握り持ち」をしている子も見られます。持ち方など何でもよいと思われる方もいると思いますが、正しい持ち方ができないことによる不利益も指摘されています。

・「握り持ち」で鉛筆が立ってしまふことにより、自分の書く字が見えづらくなる。そのため手元をのぞき込むような姿勢になり、姿勢の乱れや視力の低下につながる。

・正しい持ち方で、指の細かいコントロールを伴った書字活動をすることは、高次脳機能を高める効果がある。しかし、「握り持ち」は指をほとんど動かさずに字を書くため、効果が得にくい。

・字を書くときの所作の美しさが損なわれる。

デジタル機器の普及により、大人も含めて文字を書く機会が激減しています。しかし、日本には古くから書字を大切にしてきた文化があります。文字を書くことは、子供たちに身に付けさせたい基礎的な学力の一つであり、心を込めた文字は自分を表し、思いを伝える大切なものであることを、伝えていきたいと思えます。

今年も、保護者、地域、関係の皆様のお力添えをいただきながら、教職員一同一丸となって、より良い学校づくりに邁進してまいります。変わらぬ御理解と御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

音楽会・作品展

十二月二日(金)・三日(土)



二日間にわたり、音楽会・作品展を実施しました。音楽会に向けては、どの学年も学級や個人のめあてを立て、協力して取り組みました。子供たちは、始めはバラバラだったリズムや消極的だった歌声が練習を重ねる毎に良くなっていくことを実感し、本番で息の合った演奏を披露することができました。また、作品展に向けては、図工や家庭科の時間に、思いをこめて丁寧に作品づくりに取り組みました。ランチルームなどの会場には生き生きとした作品の数々が並び、参観者からは感嘆の声も聞かれました。

御参観くださった保護者や地域の皆様、温かい拍手や励ましのお言葉をありがとうございました。



4年生「ジュラシックパークのテーマ」他



1年生「タンプリンのわ」他



5年生「I Will Follow Him」他



2年生「かえるのがっしょうメドレー」他



6年生「豊年太鼓」他



3年生「パフ」他

いじめの相談窓口について②

十一月に引き続き、学校生活のことで、気になっていることや、困っていることの相談窓口を御紹介いたします。

【特別支援教育コーディネーター】

お子さんに応じた支援を保護者の方と共に考え、支援の計画などを提案いたします。例えば、「いつも同じ場面や同じ友達と同じような内容でトラブルになる」といったコミュニケーションのお悩みなどがありましたら御相談ください。

【スクールカウンセラー】

臨床心理士の資格をもっている、心の相談の専門家です。成長や思春期の悩み、人間関係の悩みなどがありましたら、御相談ください。保護者の方だけでなく、児童本人からの相談も受けます。来校日は、学校だよりに記載しておりますので、事前に予約をしての利用をお願いいたします。

【スクールソーシャルワーカー】

スクールソーシャルワーカーは区の福祉専門職員です。特に生活上の悩みや子育ての悩みなどに精通しています。例えば、いじめや不登校などの問題を抱えているが、お仕事や御家族の御事情で、保護者の方一人ではすぐに対応できないときに、保護者の方や御家族の環境面のフォローも含めて相談することができます。原宿の「けやき教室」で勤務していますが、予約することで、学校での相談もできます。

また、相談の内容によっては、学校への相談がためられることもあると思います。その際は、「**教育相談一般・いじめ相談ホットライン**」もあります。24時間、365日受付をしております。

いじめなどのトラブルは、学校だけの取組では解決に向かいません。地域・保護者の皆様からの協力が 필요합니다。気になること、困ったことがありましたら、いつでも御相談ください。

■ 一月の生活目標 ■ 正しい言葉遣いを遣おう

■ すこやか目標 ■

かぜやインフルエンザをふせよう

近年、子供に言葉の力がなくなったと言われることも多く、さらに言葉がないことで考える力が少なくなっているとも言われています。その原因として…核家族で地域とのかかわりが減少し家庭では単語による会話しかない。何も言わなくても物が買える便利な世の中になった。経験が、ゲームや消費などに偏りがある…など子供が育つ環境面の変化が挙げられています。

本校の子供たちの会話の中にも、相手に対して思いやりに欠ける言葉をつかっている様子が見られることがあります。学校では、言葉は人によって感じ方や受け取り方が違うことを子供たち自身が気づき、適切な言葉をつかえるよう、言葉のもつ力や言葉による暴力・いじめについても、改めて考える機会を増やせるよう努めてまいります。

最後に、例年この季節は、風邪やインフルエンザのウイルスも活発になります。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策と併せて、病気の予防をお願いいたします。

特別支援教室「ゆずりは」

◆ ソーシャルスキル ◆

集団生活の中で、豊かで円滑な人間関係を築いていくためのスキルは、生涯にわたって必要なものです。今回は『ソーシャルスキルトレーニング』について紹介します。

◆ こんなときどうする？ ◆

ゆずりは教室では、学級での様子を担任から、ご家庭での様子を保護者の方より連絡帳を通して情報をいただいています。その情報を元に、児童と質問形式で対話をしています。すぐに実生活の中で活かしていけるよう、児童に合った手立てを試行錯誤しながら考えています。

「こんな時どうする？」は、クラスや家庭での困り感を教材として取り上げています。実際の出来事に感情的にならずに客観的に考え、相手の視点にたって気持ちを想像する時間を設けています。様々な場面における対処方法を一緒に考え育てています。児童が自分以外の人の考えや、物事の捉え方の違いに気付くことは大切なことです。ソーシャルスキルを学ぶことで、しなやかな思考や様々な視点から物事を捉えられるようになります。そして、相手に対する優しさや思いやりの気持ち、態度を身につけることができるようになっていきます。

直通電話：〇三三三四八六・五一〇八

ゆずりは教室 担任 朝倉 美紀

